

# 令和6年度 社会福祉法人啓和会 事業報告

## I 法人本部

### 1. 実施事業

別紙 運営施設一覧のとおり

### 2. 事業計画

#### (1) 役員会の開催

日 時	審議事項・目的事項	場 所	出席状況
令和6年5月20日 監事監査	1 令和5年度 事業報告、理事の業務執行状況、財産状況	久喜けいわ	監事 2/2
令和6年5月27日 第127回理事会	<p>&lt;議 題&gt;</p> <p>1 令和5年4月1日から令和6年3月31日 までの事業報告の承認の件</p> <p>2 令和5年度第3回補正予算の承認の件</p> <p>3 令和5年4月1日から令和6年3月31日 までの計算書類及び財産目録の承認の件</p> <p>4 評議員候補者1名の選出の件</p> <p>5 第4回評議員選任・解任委員会の招集の決 定の件</p> <p>6 第77回評議員会（定時評議員会）の招集 の決定の件</p> <p>7 グループホーム清久短期入所運営規程の一 部改正の件</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>1 監督官庁が実施した検査又調査結果の件</p>	久喜けいわ	理事 7/8 監事 2/2
令和6年6月12日 第4回評議員選任・ 解任委員会	<p>&lt;議 題&gt;</p> <p>1 評議員1名の選任について</p>		委員 4/4
令和6年6月25日 第77回評議員会	<p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>1 令和5年4月1日から令和6年3月31日ま での事業報告の内容報告の件</p> <p>2 監督官庁が実施した検査又は調査結果の件</p> <p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>1 令和5年4月1日から令和6年3月31日 までの計算書類及び財産目録の承認の件</p> <p>2 社会福祉充実計画の承認の件</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p>1 令和6年度事業計画</p>	久喜けいわ	評議員 9/9 監事 2/2

	2 令和6年度収支予算書		
令和6年9月25日 第128回理事会	<議 題> 1 久喜けいわ給食業務委託契約の承認の件 2 令和6年度第1回補正予算の承認の件 <報告事項> 1 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告の件		理事 8/8 監事 2/2
令和7年2月14日 第129回理事会	<議 題> 1 理事長選定の件	久喜けいわ	理事 7/8 監事 2/2
令和7年3月25日 第130回理事会	<議 題> 1 定款施行細則の一部改正の件 2 令和6年度第2回補正予算の承認の件 3 令和7年度事業計画の承認の件 4 令和7年度収支予算の承認の件 5 職員給与規程の一部改正の件 6 契約職員就業規則の一部改正の件 7 育児休業及び介護休業等に関する規程の一部改正の件 8 久喜けいわ運営規程の一部改正の件 9 グループホーム清久運営規程の一部改正の件 10 久喜市いちょうの木給食業務委託契約の承認の件 11 役員賠償責任保険の更改契約の承認の件 <報告事項> 1 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告の件 2 監督官庁が実施した検査又は調査結果の件	久喜けいわ	理事 7/7 監事 2/2

## (2) 経営財源の確保

ア 幹部会議等で各事業所の利用率と収支状況を定期的に確認。利用率の推移は下表のとおり。

<平均利用率 単位：％>

事業所名	事業名	R5	R6	事業所名	事業名	R5	R6
久喜けいわ	生活介護	98.1	95.5	コムロード	就労継続B型	79.9	77.4
	施設入所	99.4	96.9	いちょうの木	生活介護	90.8	91.0
	短期入所	95.2	82.6	のぞみ園	児童発達支援	62.5	57.0
	就労移行	56.1	50.8	ゆう・あい	生活介護	93.3	91.2
	就労継続B型	98.6	94.0	あゆみの郷	生活介護	96.2	93.7
GH 清久	共同生活援助	94.9	92.6		就労継続B型	95.7	100.1
	短期入所	49.0	44.4				

- イ 利用率はほとんどの事業所で昨年度を下回ったが、給付費収入は法人全体で前年度比7,000万円超を達成することができた。主な要因としては、重度障害者に対し手厚い支援を行った場合に評価されるよう報酬改定が行われたことで、久喜けいわが増収となったこと、グループホーム清久とあゆみの郷が新たに重度加算を取得し、基準上の人数よりも手厚く職員を配置することができたこと、いちょうの木やゆうあいなど複数事業所で昨年度より高い人員配置体制加算が取得できたことが挙げられる。
- ウ 独立行政法人福祉医療機構の借入金については滞りなく償還。借入残高は下表のとおり。

<借入金償還状況 単位：円>

借入年度 借入先	借入額	期首残高	令和5年度 償還金	借入残高
平成18年度 福祉医療機構 (就労継続)	25,000,000	3,930,000	元金 1,310,000 利子 62,225	2,620,000
平成27年度 福祉医療機構 (GH清久)	10,000,000	6,288,000	元金 576,000 利子 33,132	5,712,000
合計	35,000,000	10,218,000	1,886,000	8,332,000

### (3) 施設整備

- ア 久喜けいわ旧棟建替えについての協議を実施。設計士による具体的な計画案を作成したが、資材や人件費の高騰により予想を上回る整備費が見込まれたため、計画の見直しも含め引き続き協議を行う。
- イ 駐車場整備計画について協議を実施。現状の駐車場不足に加え久喜けいわ改修計画の中でも駐車スペースの拡張は必須であるため、まずは用地獲得に向けて計画を進める。
- ウ そのほか、30万以上の主な整備内容は下表のとおり。

久喜けいわ生活棟	食堂等改修	832,700	久喜けいわ自立棟	温冷配膳車整備	1,556,500
久喜けいわ就労	トイレ改修	308,000		エレベーター部品交換	1,035,925
GH清久	手すり設置	304,810		LED設置	421,300

### (4) 給与体系の見直し・検討

- ア 賃金アップを目指しての給与規程見直しを実施。基本給のベースアップを検討したが、今後の収入見込みと照らし合わせた結果、今回の主な改正はリーダー手当の創設、処遇改善手当月額部分の10,000円アップ、夜勤手当の1,500円アップとした。基本給を含めた給与体系の見直しについては、処遇改善費の支給方法も関連させながら引き続き検討する。
- イ 処遇改善加算の一本化により支給事務の煩雑さは多少解消されたが、分配方法の見直しまでは実施できず今後の課題として残った。
- ウ 収入増に伴い、夏、冬ともに勤勉手当の上乗せ支給を実施。正職員は夏冬それぞれ0.2か月ずつ、契約、パートにはそれぞれ20%程度の増額支給ができた。

## (5) 人材確保

- ア 採用プロジェクトのメンバーを増員し、施設見学やインターンシップへの丁寧な対応、学生向けのインスタ開設、求人用のパンフレット作成、内定者との懇談会などを実施。
- イ 総務を中心に各事業所の協力を得てホームページ・SNSの更新頻度を高めた。
- ウ 採用プロジェクトでの活動をはじめ、マイナビ、アイデムなどの採用ツール、SNSなどの活用頻度を高めた結果、新卒2名、中途採用3名の新年度採用につながった。

## (6) 人材育成

- ア 法人全体研修としては、研修委員会主催による階層別研修、事例発表会、他法人の施設長をお招きしての講演会等、計8回、虐待防止委員会主催による虐待防止研修を計3回実施。その他は各事業所にてそれぞれ内部研修を行った。
- イ 強度行動障害支援者養成研修の基礎研修および実践研修に8名が参加。
- ウ 資格取得支援制度を活用し職員1名が社会福祉士を取得。
- エ 職務点検活動を実施。毎年度、点検項目や着眼点等の見直しを行うなど精度を高める努力をしているが、支援においては点数化しにくい職種であること、各事業所の事業規模や事業内容の違いにより一定基準での評価が難しいなどの課題があり、今後も改善策の検討が必要。来年度は評価方法を一部変更して、職員たちがより前向きに仕事に取り組めることを目指す。

## (7) 法人本部機能の強化

- ア 総務課に主任の配置を増やし業務分掌の見直しを実施。今後も引き続きジョブローテーションを進め、各人が業務を通じて事業運営上必要な法令や基準等への理解を高めることで法人本部全体の機能強化につなげていく。
- イ 総務課職員2名を採用プロジェクトメンバーに加え応募者への対応を強化。採用担当者としての育成にも力をいれている。

## 3. 全事業所共通事項

### (1) 虐待防止への取り組み

- ア 虐待防止委員会の構成員を管理者中心から主査・主任中心に変更し、より現場に即した委員会として活動を行った。チェックリストの結果では、昨年度より危険度数値が低くなった事業所が複数あり活動の成果が見られた反面、行動障害への対応については難しさを訴える職員が多いなど課題は残っている。虐待防止委員会は6回、虐待防止全体研修は3回実施。
- イ 身体拘束適正化委員会を2回実施。身体拘束等適正化に関する要綱、指針の全体周知と、各事業所で実施した身体拘束に関する研修の内容報告を行った。

### (2) 災害対策の充実強化

- ア 各事業所で地震・火災・水害を想定した避難訓練を実施した。より現実的な対策のため、消防署立会いのもと火災時の煙体験訓練に利用者が参加したり、災害時の非常物品の持ち出し訓練や近隣施設と一緒に避難訓練を行う事業所もあった。
- イ 各事業所で作成した事業継続計画（BCP）をもとにしたBCPを学ぶ研修と、災害時

の初動をイメージした机上訓練を事業所単位で実施した。今後は災害時の事業所間の連携や法人としての動きをシミュレーションして災害時に備えていきたい。

### (3) 感染症対策

- ア 定期的に感染症対策委員会を開催し、感染症対応方針の共有、各事業所の感染状況の確認等を行った。また、委員会で嘔吐物処理の動画作成を行い、視聴して訓練を行った。
- イ 大きな集団感染にはならないものの、法人内で新型コロナウイルスやインフルエンザの感染が発生。今後も基本的な感染対策を継続しつつ、各事業所でイベントや活動の幅を広げる取り組みを行っていく。

### (4) 働きやすい職場作り

- ア 年間休日日数を2日間増やし115日とした。
- イ 幹部会議での事業所報告に年休取得状況の記載欄を新たに設けた。会議内で報告しあうことでそれぞれが事業所の状況を把握しやすくなり、年休取得の推進につながった。
- ウ 昨年度に引き続き職員意向調査を実施。個別事案については面談を実施するなどして対応し、要望の多い項目は本部や幹部会議で協議を進め、できる範囲で実現を目指した。久喜けいわとグループホーム清久の要望として高かった連休については、事業所間の協力体制を作ることで希望者に4日以上連続休暇が取得できるようにした。
- エ 残業時間を減らす取り組みについては検討を進めているが解決には至っていない。各事業所の状況や職種によっても対応すべき内容が異なるため、問題点を整理しながら来年度も引き続き取り組んでいく。

### (5) 社会貢献事業の取り組み

- ア 地域貢献活動委員会にて地域への貢献活動を検討。地元67区には高齢の方が参加しやすい集会所がなく困っている様子が見られたため、委員会から機能訓練棟の利用について地域に働きかけた結果、自主防災訓練と定期総会の実施場所として活用して頂くことができた。委員会メンバーの職員も事前準備や当日の運営に参加し、地域の方と交流する機会にもなった。
- イ コロナで中止となっていた啓和まつり復活の第一歩として感謝祭を実施。地元やボランティアなどの協力者を招待し、今までの感謝を伝える場として開催した。
- ウ 久喜市の事業である「AED使用協力事業所認定事業」に久喜けいわとグループホーム清久が申請し認定を受けた。双方に設置しているAEDを緊急時には市民にも無償で貸し出しできるよう設置場所などが公表されているほか、地元には総会や回覧板などで情報提供を行った。

## Ⅱ 障害者支援施設 久喜けいわ

### 1. 実施事業

#### (1) 定員と利用率

令和7年3月31日現在

事業名	定員	現員	平均利用率
生活介護	67名	68名	95.5%
施設入所	54名	54名	96.9%
短期入所	6名		82.6%
就労移行	6名	3名	50.8%
就労継続B型	32名	34名	94.0%

#### (2) 利用者年齢構成

※( )は施設入所

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均年齢
生活介護	男性	2(1)	7(1)	6(6)	24(22)	1(1)	0	0	48.0歳 (50.8歳)
	女性	2(2)	6(2)	3(3)	10(9)	2(2)	4(4)	1(1)	52.5歳 (55.1歳)
計		4(3)	13(3)	9(9)	34(31)	3(3)	4(4)	1(1)	68人 (54人)
就労移行	男性	2							21.5歳
	女性	1							29.0歳
就労継続 B型	男性	7	7	3	2	1	2		38.5歳
	女性	2	1	2	2	2	2	1	49.6歳
計		12	8	5	4	3	4	1	37人

#### (3) 障害支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	計
生活介護	男性	1(0)	3(0)	10(6)	26(25)	40人(31人)
	女性	0(0)	2(0)	7(4)	19(19)	28人(23人)
計		1(0)	5(0)	17(10)	45(44)	68人(54人)

#### (4) 工賃支給額

<生活介護>

※3月31日分は令和7年4月25日に支給

支給日	10月31日	3月31日	合計
工賃支給額	445,400円	443,700円	889,100円
平均支給額	6,362円	6,249円	

<就労継続B型>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均
15,314円	15,830円	17,148円	11,941円	12,530円	13,271円	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26,541円	19,863円	19,958円	20,464円	21,580円	21,732円	18,014円

## ＜生活支援課＞

### 2. 令和6年度の重点実施事項

#### (1) 「人生を楽しもう！」

以下の項目を柱として事業を実施した。（内容は「具体的取組み」に記載）

- ・仕事を楽しむ
- ・活動を楽しむ
- ・好きなことを楽しむ
- ・人とのつながりを楽しむ
- ・学びを楽しむ
- ・健康に暮らす

#### (2) 利用者活動の充実

ア 活動班の再編成を利用者の要望を聞き、全員が日中活動に参加できた。

イ 7つの活動班を設置し、それぞれの特色を生かした取り組みを行った。取り組みを通して見えてきた課題については責任者を中心に随時検討を行っている。

#### (3) 人権擁護の意識向上

ア 年に4回、権利擁護に関する標語を職員同士で作成し、掲示した。また、取り組みの自己点検として職員にアンケートを実施し、自分の支援を振り返る機会をつくった。

イ プロジェクトKの活動として「ほほえみ便り」を発行。職員の声と虐待に関するの記事などを棟内に掲載し職員の意識向上の啓発につながった。

ウ 利用者ひとりひとりに寄り添い、丁寧な声掛けをすることに心掛けた。

### 3. 具体的取組み

#### (1) 利用者支援

ア 活動を楽しむ

(ア)活動内容の見直しと再編成を行い、一人一人の希望や適性に合った活動班を7つ作り、各班による活動目標を設定し動機づけを図った。今後は活動の内容や活動時間を工夫しより充実できるようにしていきたい。

(イ)グループホーム清久と共同し、11月にウォークラリー大会、12月に忘年会を行った。グループホームの入居者と職員が互いに連携しあって企画や準備に取り組み、とても有意義な時間を過ごせた。

(ウ)グループホームの見学を数名が行った。体験利用の希望はなかった。

イ 好きなことを楽しむ

(ア)外出先や活動内など利用者が選択できる機会を意識的に増やした。

(イ)利用者全員がクラブ活動に参加することができた。

##### ＜マラソンクラブ＞

定期的に機能訓練棟や公園で練習を行い、近隣のマラソン大会に参加し完走。練習や大会ではマラソンボランティアが再開し伴走を行ってくれており、活気が戻ってきている。

##### ＜音楽クラブ＞

毎月1回、定例で実施。ボランティアでピアノ講師に来て頂き、歌や楽器演奏を楽しんだ。

##### ＜ハイキングクラブ＞

森林公園、湯ノ湖でのハイキングに出かけ、ハイキングを楽しんだ。登山も計画していたが、悪天候で中止になってしまった。

##### ＜シネマクラブ＞

利用者に観たい映画の希望を聞き取り、映画館や機能訓練でのDVD上映の鑑

賞を楽しんだ。

#### <いきいきクラブ>

近隣の公園でのお花見、室内でレクリエーションなど、のんびり過ごした。

(ウ)少人数のグループでの日帰り旅行を計画した。県内の他、東京や茨城、栃木に公共交通機関を利用した旅行も行い、各自希望する外出を楽しむことができた。

#### ウ 健康に暮らす

(ア)保温庫を取り入れ、温かい食事の提供ができるように試みた。大変好評であり、生活棟でも活用について検討していく。

(イ)理学療法士の訪問指導を月に2回実施。個別訓練が必要な利用者については、個別リハビリプログラムを作成し定時に訓練を行い機能維持に努めた。

(ウ)腰痛や拘縮がある利用者には、鍼灸師による訪問マッサージを月2回施術し心身のリラックス効果を図った。

(エ)嚥下機能に課題のある利用者に対して、言語療法士の訪問指導でアドバイスを受けた。加齢により嚥下機能の低下で誤嚥性肺炎のリスクが高くなっている。

(オ)毎月1回、健康運動指導士に来てもらい、機能訓練棟で楽しみながら体を動かす時間を作った。また、月に2回、運動レク担当職員による運動日を設けて実施した。若い職員が中心となり、オリジナル体操「けいわ体操」を作り上げ、日々体を動かす時間に取り入れている。

(カ)嚥下機能の低下による誤嚥性肺炎が原因で7月に80代女性、1月に50代男性が亡くなった。また、80代女性精神疾患が悪化し食事を摂れなくなり7月から入院している。

## (2) 働きやすい職場づくり

### ア 仕事を楽しむ

(ア)法人の委員会やプロジェクト活動のメンバーに若手職員を登用した。他事業所の職員との意見交換や情報共有などが図れたことで考え方に多様性の幅が広がりモチベーションの向上につながった。

(イ)半年に1度、全体会議を実施した。各事業の取り組み状況や課題を共有し支援の強化に取り組んだ

(ウ)棟会議では、利用者への対応や環境整備などの課題点について話し合い、解決策を検討した。特に利用者対応については、職員が悩みを抱え込まないよう問題点を全体化し、チームで対応できる環境を作った。

## (3) 人材育成

### ア 学びを楽しむ

(ア)強度行動障害についての外部研修を計画的に参加した。受講内容の共有化は各棟の会議の中で行った。

(イ)介護技術の専門性を高めるため、介助方法について理学療法士から学ぶ機会を設けた。高齢者施設での現場実習は実施できていない。

#### <主な参加研修>

外部研修	感染症予防、虐待防止、意思決定支援、リスクマネジメント、GSV、強度行動障害、実践交流会、AED講習
------	--

**(4) リスク管理**

## ア 災害対策

(ア)地震、火災、水害を想定した避難訓練を3回実施した。水害訓練では、縦避難として自立棟2階への避難を実施した。今後もさまざま想定での訓練を行っていく。

(イ)大規模災害を想定し、防災担当職員による防災器具の定期点検を行った。

## イ リスク回避

(ア)事前のリスク回避として、各棟で危険個所の点検を定期的に行った。担当職員がリスクマネジメント研修に参加し、現場に生かせるようにした。

(イ)危険個所の点検や、利用者への対応方法について意見交換を行うなどしてリスク回避に努めたが、身体機能の衰えによる転倒や誤嚥などが増えてきている。

**(5) 事業運営（環境整備）**

## ア 生活環境改善のための主な各所修繕

(ア)自立棟食堂床、自立棟2階廊下床の張り替えを行った。環境も明るくなり快適になった。

(イ)自立棟の2人部屋に間仕切り設置をした。プライバシーが保たれ、よい効果が出ている。

## イ 旧棟建て替えに向けた取り組み

(ア)他施設や活動場所として参考となるような場所を見学した。改築した近隣施設の見学では、入浴設備やトイレなど、現場の随所に支援の工夫がみられ参考となった。

(イ)設計士との打ち合わせを綿密に行いながら、旧棟建て替えに向けた準備を進めている。

## < 就労支援課 >

### 1. 令和6年度の重点実施事項

#### (1) 就労移行支援

ア 利用者一人ひとりの個別プログラムを作成し、リレーションシップセンター久喜で就労アセスメントを実施するなど、計画的にステップアップを図った。その他でも企業説明会に参加して就労への意識を持てるようになった。

イ 1名の利用者が委託訓練に参加した。企業実習に初めて取り組み、体験を通して抽出された課題を持ち帰り、課題に向けた新たな支援に取り組んだ。

#### (2) 就労継続B型

ア 今年度の平均工賃は18,000円となり、目標金額13,000円を上回った。

イ 事業別会議で、前年度の閑散期を振り返り、受託作業の確保について話し合った。早めに受注を依頼するなど職員全体が工賃向上の意識を持って取り組めた。

ウ けいわ味噌のブランディングを行い、味噌のラベルをリニューアルした。また、けいわフェスで冷や汁や味噌焼きおにぎりを販売しPRに繋がった。

### 2. 具体的取組み

#### (1) 利用者支援

##### ア 就労移行支援

(ア)月に1回座学を行い、「日常生活のマナーやルール」「働くとは」「報連相のタイミング」など働く上でのマナーを学べる機会を設けた。また、就労支援センターの職員に講師をしてもらい、利用者が支援センターで相談できることや役割を確認した。

(イ)リレーションシップセンター久喜を活用し、1名の利用者が就労アセスメントを実施した。就労アセスメントの適性判断を基に委託訓練に参加したが、就労には結びつかなかった。

(ウ)2ヶ月に1回就労支援センターとの連絡会を実施し、進捗状況や課題について共有した。

##### イ 就労継続支援B型

(ア)閑散期に入る前に受託作業の調整を行い、活動と収入の安定を図った。

(イ)作業現場では、その都度利用者の特性に合わせた作業工程の取り組みを見直し、効率アップに努めた。

(ウ)けいわフーズプロジェクトと協働して、けいわ味噌のラベルをリニューアルした。また、味噌の原価を見直して学校給食センターと特別支援学校の単価を変更した。

##### ウ 虐待防止対策

(ア)内部研修として、ケース検討会議を行い支援の統一を図った。また、虐待防止チェックリストの振り返りを行い、日々の支援について話し合った。

(イ)毎日の夕会では、その日にあった支援の取り組みについて共有し、より良い支援のための意見交換を行った。

#### (2) 働きやすい職場づくり

##### ア 業務改善

業務全体を分担表にして視覚化を図り、遂行状況を確認ができるようにした。

業務の偏りや負担があった時は全体に周知して協力を依頼し業務を分散した。

イ ストレス軽減

課長や主任が積極的にコミュニケーションを取り、不安や不満に対する相談に乗った。またすぐに対処することでストレス軽減に繋がった。

(3) 人材育成

ア 研修への参加

「工賃を手掛かりに改めて就労継続支援を考える研修」、「食のリスクコミュニケーション研修」、「障害者雇用サポートセミナー」、「意思決定支援研修」など、就労支援に特化した研修会への参加を進めた。

イ 他事業所見学

就労継続 B 型の職員 1 名が、さいたま市の就労継続 B 型「どっぼジョブセンター」を見学し、就労支援の取り組みを学んだ。

(4) リスク管理

ア 災害対策

- (ア) 火災や地震、水害などを想定した訓練を 6 月、9 月、11 月、2 月に実施した。  
火災想定での消防署立ち会い訓練では、「煙体験」を利用者と職員が体験し、煙の中の息苦しさや視界の悪さを体験した。
- (イ) 大規模災害時の家族への連絡手段や引き渡し方法について、緊急連絡用紙を作成した。今後は各家庭に配布し取りまとめていく。

イ 安全管理

- (ア) 学校給食センターに納品した味噌の中に異物混入があった。専門機関に検査を依頼したところ、異物は「炭化物」と判明。原因は製造器具の隙間に付着していたものだったので、定期的に業者にメンテナンスを依頼する。
- (イ) 定期的に館内を見回り危険個所を点検した。昨年雹の被害で、玄関の自動ドアの振れ止めの破損が見つかり修繕を依頼した。

ウ 感染症防止対策

- (ア) 昨年度のコロナの感染者は移行 1 名継続 B 型 2 名だった。
- (イ) 久喜けいわ看護師による「実践で学ぶ感染予防」で、ガウンテクニックや吐物処理を学び、手洗いチェッカーを使用して手洗い訓練を実施した。

(5) 地域交流

ア 地域との交流

Amazon Japan 久喜工場、清久コミュニティまつり、新久喜総合病院健康まつりなどのイベントに参加し、味噌販売を通して地域との交流を深めた。また、休日開所を利用して小旅行を計画し、4 グループに分かれて実施した。

イ 地域貢献

近隣を回っての清掃活動の他、施設まわりの美化活動（花壇の手や除草）を行った。

(6) 事業運営（環境整備）

設備点検を行い、継続 B 型作業室トイレや、就労支援課棟トイレの修繕を行った。

### Ⅲ グループホーム清久

#### 1. 実施事業

##### (1) 定員と利用率

令和7年3月31日現在

事業名	定員	利用率
共同生活援助	定員44名	92.6%
短期入所	定員1名	44.4%

##### (2) 利用者年齢構成

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	総数
清久	男性			2名	2名	2名				7名
	女性							1名		
上清久	男性		1名		1名			1名		3名
	女性						1名			
しらはた	男性			1名		1名		1名	1名	7名
	女性							2名	1名	
ハイツ	男性			1名		1名		1名		3名
	女性									
こがらい	男性			1名	1名	2名	1名			7名
	女性					2名				
こすもす	男性									0名
	女性									
うちや	男性				2名	1名				4名
	女性									
おぎそね	男性				1名	4名				7名
	女性						1名	1名		
こぎそね	男性	1名								1名
	女性									
合計		1名	1名	5名	7名	13名	3名	7名	2名	39名

平均年齢		
男性	女性	全体
52, 4歳	67.8歳	56歳

##### (3) 障害支援区分

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男性			9名	3名	12名	4名	2名	30名
女性				2名	6名	0名	1名	9名
計			9名	5名	18名	4名	3名	39名

## 2. 令和6年度の重点実施事項

### (1) 高齢化、重度化対策

高齢化に伴い、通院時に移動が困難な利用者の在宅診療を開始した。また、咀嚼が難しい利用者には配食サービスを活用し、咀嚼しやすい食事を提供した。

### (2) 権利擁護、虐待防止の意識向上

ア 権利擁護・虐待防止に関する内部研修を9月と3月に実施した、職員の意識向上に努めた。

イ 利用者の課題や生育歴を各ホーム会議で見直し、理解を深められるような会議を全ホームで実施した。

### (3) 夜勤専従職員の確保

求人情報サイトや職員紹介制度において夜勤専従職員の確保はできなかったが、職員紹介制度で日勤帯の職員を確保できた。

## 3. 主な取り組み

### (1) 利用者支援

ア 地域生活者としての自立支援

(ア) 利用者の要望や意見を聞き、個別支援計画に反映し、生きがいのある生活が送れるように支援した。

(イ) サテライト型ホームに入居している利用者には、支援センターと連携してお金の使い方に対して支援を行った。来年単身生活できるようにしたい。

イ 健康管理

(ア) 健康について、以前作成した「健康の話」の紙芝居を見せながら、利用者と一緒に考える機会を作った。その効果で甘い飲料水を飲み過ぎないように意識している利用者が出てきた。

(イ) 機能訓練棟を活用しながらの運動を月1回は実施できなかったが、各ホームで休日散歩に行ったり、スクワットをしたりする機会を作った。

ウ 余暇活動の充実

(ア) 今まで野球観戦をしたことがない利用者の外出計画を実施できた。今後興味が広がることを期待したい。

(イ) 利用者が希望する日帰り旅行に3回、1泊旅行に1回行き、計画通りに実施できた。

(ウ) 久喜けいわと共同イベントを行い、11月にウォークラリー、12月に機能訓練棟で忘年会を実施し、各利用者の交流ができた。

エ 高齢化、重度化対策

(ア) 要介護認定を受けて新たに介護保険サービスに移る利用者はいなかったが、現在利用している利用者が支給サービス内で車いすのレンタルを行った。

(イ) 高齢者の多いホームしらはたの廊下、トイレ、玄関、浴室に手すりを増設して、生活しやすい環境を整えた。

(ウ) 高齢化、重度化に伴い、支援の必要性に応じて、認定調査にて障害支援区分の見直しを計画的に行い、区分6に4名、区分5に1名が上がった

### (2) 虐待防止と権利擁護の意識向上

- ア 虐待防止に関する標語を各ホームに掲示し、6ヶ月ごと職員に振り返りシートを記入してもらい、意識できるようにした。
- イ 福祉経験が浅い職員について、埼玉県グループホーム研修に運営として関わっている職員が事業所内で同じ研修を実施して学べるようにした。

### (3) 働きやすい職場づくり

- ア 一人仕事が多い為、職員が仕事を抱え込まないために、各職員の仕事量を主任と確認しながら、協力体制を整えた。
- イ 職員が不安やストレスを抱え込まないように、各ホーム会議を開催しながら悩みや支援の振り返りができるようにした。
- ウ 年次有給休暇は、正規職員・パート職員ともに年5日以上取得し、すべての職員が希望通りに休みを取得できた。正規職員の時間外労働は、パソコンのネットワークを構築することで軽減できた。

### (4) 人材育成と人材確保

- ア 福祉未経験の世話人が、知識、スキルが身につくように内部研修を年2回実施した。世話人の外部研修は、勤務調整がうまくいかず参加できなかった。
- イ 正規職員2名が自主的に強度行動障害の基礎研修、実践研修に参加した。事業所内でも同じ研修を実施し、職員間で内容を共有した。
- ウ グループホームの内部研修を9月と3月に実施した。同じ研修を何度も行うことで、知識の再確認ができるという意見の職員が多かった。

### (5) リスク管理

- ア 火の始末については、日勤勤務者と夜勤者の二重で確認を行った。家電製品は定期的に確認を行い、老朽化した製品は交換することで火災予防に努めた。
- イ 年2回の避難訓練を実施した。10月に久喜けいわの機能訓練棟で災害予防の勉強会を開き、利用者も災害について学べる機会を作った。
- ウ 老朽化したホームの電源設備の修理や古いエアコンの交換を行い、生活環境を整備した。

### (6) 地域交流

- ア 地域のごみゼロ運動に3回、夏まつり天王様、清久運動会、地域自主防災訓練、清久婦人会の活動に参加して、地域と交流を図った。
- イ 地域の自主防災訓練に職員1名、利用者2名が参加した。久喜けいわの機能訓練棟で煙体験、消火活動、段ボールベットの作成、テント張りの活動を地域の方々と一緒に行い、有事の備えを学んだ。

### (7) 事業運営（収益の向上）

- ア 利用率の向上  
老朽化したホームを閉所し、短期入所利用者を3名確保できたが、利用率は共同生活援助で前年比3%減、短期入所5減であった。令和6年度から重度加算を取得したので、収入は600万円程増加した。

## IV 相談支援センター

### 1. 実施事業

#### (1) 事業及び職員体制

令和7.3.31現在

	事業名	実施主体	職員体制
生活に関する事業	基幹相談支援センター事業	久喜市	1名(専任)
	相談支援事業(委託、一般、特定)	久喜市	6名(兼務6名)
	障害児等療育支援事業	埼玉県	2名(兼務)
	巡回支援専門員整備事業	久喜市	3名(兼務)
	彩の国あんしんセーフティネット事業	埼玉県社協	2名(兼務)
就労に関する事業	久喜市障害者就労支援事業	久喜市、白岡市、宮代町	3名(兼務)
	障害者就業・生活支援センター事業	国(就業)	5名(専任)
埼玉県(生活)		2名(専任、兼務各1名)	

### 2. 令和6年度の重点実施事項

#### (1) 地域課題の抽出および解決策の検討(生活相談)

毎月の調整会議にて、委託相談のケースワークから見える共通課題・解決策を協議した。それを元に年度末に自立支援協議会の定例会へ報告した。

#### (2) 地域の関係機関との連携強化(就労相談)

地域の連携会議等の場で就労支援センターの役割を再周知することで、関係機関との的確な連携・役割分担に繋がり、有機的なネットワークが構築できた。

#### (3) 地域の支援体制強化の推進(基幹相談)

自立支援協議会の各部会・プロジェクトについて、事務局会議の中で目的・達成度等を確認して整理を行った。また、サービス提供事業所職員にも部会等への参画を促した。

### 3. 具体的取組み

#### (1) 利用者支援

##### ア 久喜市基幹相談支援センター

(ア)地域の相談支援事業者が支援する困難ケースについて、適宜ケース会議に同席し助言を行うことで関係機関との連携強化に繋がった。

(イ)自立支援協議会の事務局として地域課題や必要な取り組みを整理し、定例会に報告して施策推進協議会との連動に繋がった。

<支援種別>

(件)

電話相談	外来	関係機関訪問	ケース会議参加	指定特定巡回	自立協議会等
231	30	132	53	29	165

##### イ 久喜市障がい者生活支援センターきらら

(ア)利用者の日常生活全般の相談に応じた。内容によっては他機関での支援を受ける事が適切な事も有ったため、本人の了承を得たうえで関係機関に繋いだ。

(イ)在宅の障害児および家族に対して療育指導および相談支援を行った。

(ウ)市内保育園・幼稚園を巡回し、児童への接し方について助言を行った。

<支援種別> (件)

訪問	外来	同行	個別会議	関係者会議
658	290	187	40	248

ウ 埼葛北障害者就業・生活支援センター、久喜市障がい者就労支援センター

(ア)担当圏域の利用者及び関係者に対して、就労に関する専門的な助言を行った。

生活課題等も鑑み、必要に応じて適切な機関に繋いだ。

(イ)利用者の体調や生活状況、家族環境、障害特性について面談等を通して丁寧に見極め、その人の状況に応じた就労準備および企業へのマッチングを行った。

(ウ)利用者が勤務する企業を訪問したり、受診同行して病院とも情報共有を行い、仕事面・生活面を一体的に支援した。

(エ)圏域内の就労支援センター連絡会を主催し、就労相談員同士の連携を強化した。

<支援種別> (件)

来所相談	電話相談	職場訪問	他機関訪問	新規就職者	実習者
645	3055	903	442	34	27

エ 虐待防止対策

(ア)年齢に応じた呼称や丁寧な言葉かけについてミーティング等で周知を徹底し、日頃から人権を尊重した相談支援を行った。

(イ)自立支援協議会の権利擁護部会等を活用して虐待防止センターとの連携を深め、虐待を受けた疑いのある障害児者に対して迅速に対応した。

## (2) 働きやすい職場づくり

ア 主任・主査・管理者打ち合わせを毎月実施し、各相談員の抱えている業務量・負担感を確認し、適宜調整してバーンアウト防止に努めた。

イ 管理者との面談の他、担当主任との面談を年2回行い、各相談員が悩み・心配事を抱え込まない環境づくりに努めた。

## (3) 人材育成

ア 生活・就労の事業ごとに、主査・主任が中心となり、経験年数に応じたOJTを行った。

イ ミーティング内での事例検討や地域で行われるGSV等に全相談員が参加しスキルアップに努めた。

## (4) リスク管理

ア 埼玉県安全運転管理者講習の内容を元に、全体会議の場でながら運転のリスクや適切な車間距離について共有した。

イ 自然災害におけるBCPを共有し緊急時の役割分担を確認した。また、登録者の中で単身者等、頼れる家族や支援者がいない方について名簿を整理した。

**(5) 感染防止対策**

毎日担当者を決めて事務室内の消毒を行い、感染防止に努めた。

**(6) 地域交流**

ア 住民との連携

利用者への対応について民生委員とも積極的に連絡を取り合い、地域住民との関係を作った。

イ 地域貢献

経済的に困窮する地域住民に対して、各制度を活用して現物給付および相談支援を行った。

**(7) 事業運営（収益の向上）**

ア 事業計画について年度当初に全相談員に周知し、事務室内に掲示しておく事で意識を高め、実績向上への意識を共有した。

イ 印刷代、電気料金等が高額となった月には全相談員に周知し、支援に支障の無い範囲で節約するよう促し、経費削減に繋げた。

## V ワークハウスコムロード

### 1. 実施事業

#### (1) 定員と利用率

令和7年3月31日現在

事業名	定員	現員	平均利用率
就労継続支援B型	20名	27名	77.4%

#### (2) 利用者年齢構成

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均年齢
就労継続 B型	男性	1	4	2	8	3	1	0	35.7
	女性	0	0	3	2	2	0	0	38.5

#### (3) 障害支援区分

		未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
就労継続 B型	男性	8	0	4	3	4	0	0	19人
	女性	4	0	0	3	0	0	0	7人
計		12	0	4	6	4	0	0	26人

#### (4) 工賃支給額

4月	5月	6月	7月	8月	9月		
13,278円	18,742円	10,373円	12,213円	15,739円	13,019円		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
11,797円	13,114円	17,032円	15,715円	13,482円	13,783円	14,023円	

### 2. 令和6年度の重点実施事項

#### (1) 工賃の向上

平均工賃は前年度に比べて上がっている。要因としては、受注単価を上げる事が出来たことと、新たな作業を受託することが出来た。更に令和7年度にスタートする作業も交渉している。

#### (2) 一人ひとりの希望や適性に応じた活動の支援

利用者の希望や適性を考慮した個別支援計画を作成し支援を行った。一般就職へのアセスメントとして、就労選択性試行事業のモデル事業に参加して就労適性のアセスメントを行った。また、自宅から自立を目指す利用者に対して関係機関と協働して支援を行った。

#### (3) 経営の安定化

平均利用率は77.4%となり目標の80%を下回ってしまった。精神的不調による長期療養者が多かった。また、平均工賃は14,023円となり目標の1万円以上を達成した。

### 3. 具体的取組み

#### (1) 利用者支援

##### ア 就労支援

- (ア) 一般就労を希望する人に対して就労支援センターと協働して支援を行った。
- (イ) 就労準備性のアセスメントとして、就労選択性試行事業のモデル事業に参加して就労適性のアセスメントを行った。
- (ウ) 一般就労後、定期的に職場訪問して様子を確認した。令和7年4月現在も就業している。

##### イ 日中活動支援

- (ア) 日々、面談などを行い精神的不安や緊張を解消することで徐々に通所日数を増やすことができた。
- (イ) 自らの意見を述べる場として毎月作業工賃支給日にアンケートを実施し、当月の反省や翌月の目標を記入してもらい支援に反映させた。
- (ウ) 地域での生活が維持できるように、市福祉課、市社協、他事業所、相談支援センター等と連携して支援を行った。

##### ウ 虐待防止対策

利用者に虐待防止や権利擁護の学習会を実施した。利用者に事例を問いかけて、日々活動や生活で権利侵害をされていないか確認する機会を作った。また、職員にはチェックリストを活用して虐待防止についてディスカッションをした。

#### (2) 働きやすい職場づくり

- ア 各職員の係や担当の見直しを行ったが、業務負担の軽減や業務の効率化には至らなかった。
- イ 健康診断、ストレスチェックを実施した。コミュニケーションを密にして各職員の心身の状況を把握することに努めた。

#### (3) 人材育成

- ア 職員1人ひとりに合わせた資質向上を目的として、精神障害・発達障害、就労支援スキルに関する研修を受講した。
- イ 受講した研修を実践に活かせるように職員会議にて共有をした。

#### (4) リスク管理

事故、自然災害、感染予防等のリスクを防止、軽減するために以下の取り組みを行った。BCP計画に基づいて訓練、研修を実施した。

##### ア 災害対策

- (ア) 被災時に備え、耐震設備の点検・追加、マニュアル更新、備蓄品の更新を行った。避難訓練時に水害が起こった時の対応方法などの学習会を行った。
- (イ) 近隣施設の社会福祉法人茂樹会久喜の里（高齢者入所施設）の避難訓練に参

加して災害時の連携について確認した。

イ 感染症対策

日中活動中の密を避けるため、活動場所・休憩場所・休憩時間をずらした活動を行った。

(5) 地域交流

年2回、地区のゴミ拾いに参加して清掃活動を行った。参加の際は、グループホームうちやの利用者と共に参加して地域との交流を持つようにしている。

(6) 事業運営（収益の向上）

ア 就労移行者を増やすために希望する人には就労アセスメント等を実施して課題の整理と意識の向上を行った。新たな利用者確保に向けて各関係機関と連絡調整を行った。令和7年3～4月に2名の利用者が利用を開始した。

イ 工賃向上のため、既存の受託作業は単価交渉を行った。また、新たな受託作業の導入を行った。

## VI 久喜市いちょうの木

### 1. 実施事業

#### (1) 定員と利用率

令和7年3月31日現在

事業名	定員	現員	平均利用率
生活介護	40名	40名	91.0%

#### (2) 利用者年齢構成

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均年齢
生活介護	男性	1	8	10	6	1	0	1	45.5歳
	女性	1	5	2	4	1	0	0	41.4歳
		2	13	12	10	2	0	1	45.0歳

#### (3) 障害支援区分

		未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
生活介護	男性	0	0	0	0	6	9	12	27人
	女性	0	0	0	0	1	6	6	13人
計		0	0	0	0	7	15	18	40人

#### (4) 工賃収入

支給日	4月10日	7月10日	10月10日	1月10日	年間合計
支給額	110,084円	215,695円	189,291円	308,803円	823,873円
平均支給額	2,752円	5,521円	4,747円	7,832円	5,213円
最高支給額	3,306円	5,890円	5,270円	8,308円	5,694円

### 2. 令和6年度の重点実施事項

#### (1) 社会参加活動の取り組み

令和5年5月に感染症の位置づけが5類相当になったことを踏まえ、日帰り旅行や社会体験活動等外での活動を提供した。また、いちょうの木まつりではボランティアの協力のもと、まつりを開催することができた。

#### (2) 関係機関との連携

清久さくらまつりでは自主製品販売を行い、第73区防災訓練では地域の方と一緒に訓練を行うなど、地域行事に積極的に参加した。また、いちょうの木まつりではボランティアや、法人外の方にも声を掛け、4年振りに各関係機関の協力のもと開催することができた。

#### (3) 各種リスク対策の強化

ア 様々な感染症に対する予防と対応について内部研修を実施し、職員の意識向上を図った。

- イ 利用者の身体機能の低下や食事中の咀嚼、嚥下について、毎週水曜日に OT、PT、ST よりレクチャーを受け、身体機能低下の予防と対応を行った。
- ウ 建物の老朽化とメンテナンスのため、ホール、作業室床の張替えと廊下の剥離を行ったことで明るい雰囲気を作ることができた。

### 3. 具体的取組み

#### (1) 利用者支援

##### ア 支援方法

- (ア) 意思表出が難しい利用者について日頃からコミュニケーションをとり、表情やいつもと違った行動を観察することで、意思を汲み取るように努力し、グループ会議等で対応を検討した。
- (イ) 活動で制作した絵画を各種展覧会に出展した。また、市内の店舗や地域のイベントで自主製品の販売を行い、大きな収益を上げることができた。

##### イ サービスの提供

- (ア) 実施時期に新型コロナウイルス感染症に罹患することもあり参加を見合わせることもあったが、概ね予定通り外出や行事を行うことができた。
- (イ) 個別支援計画に基づいた支援を心掛け、適時評価を重ねながら支援を行った。
- (ウ) 居宅サービスをはじめとする複数のサービスを利用する利用者が増えてきているため、他サービス機関との連携を行い、それぞれの役割分担と総体的評価について課題共有などの認識を深め適切な支援に努めた。

#### (2) 働きやすい職場づくり

##### ア 業務の改善

日々の業務や支援内容の中で課題となっている休憩時間の取り方や事務時間の確保について職員自身が考え、意見交換を行うことで業務改善を行うことができた。

##### イ コミュニケーションの円滑化

職員間で円滑なコミュニケーションを図れるようにコミュニケーションスキルの内部研修を予定していたが、実施できなかった。

##### ウ 労働災害の防止

- (ア) リスクアセスメントチェック表を活用し危険個所の早期発見と改善を行った。
- (イ) ストレスチェック表を活用し、一人ひとりが自分のストレス状態を自覚するように努めた。また日頃のコミュニケーションを通しストレスの原因を探る努力をした。

#### (3) 人材育成

##### ア OJT の充実

- (ア) 職員の朝会夕会で1日の振り返りを行い、情報の共有と支援課題等について

確認し、早期対応を心掛けた。

(イ) グループ会議にてケース検討を行い、意思決定支援を重視した検討内容とし、職員全体に申し送りを行った。

イ OFF-JTの積極的な参加

法人で行った階層別研修に参加し、職員の仕事に対する意識向上を図った。

#### (4) リスク管理

ア 建物、設備等の老朽化への対応

(ア) 毎日自主点検表をチェックし、危険個所への対応を速やかに行った。

(イ) 老朽化が進んでいるホール、作業室床の張替え工事を久喜市と協議しながら行った。また、多目的トイレの改修工事を行った。

イ 機能低下が見られる利用者の事故防止

(ア) 訪問看護にて利用者の身体機能の状態を確認し、必要な介助方法や支援方法のレクチャーを受け実施した。

(イ) 安全な食事の提供を心掛け、摂食機能の変化がある利用者の食事形態や咀嚼、嚥下の状態について毎月の給食会議や言語聴覚士に相談した。

#### (5) 事業運営（収益の向上）

ア 利用率の向上

※昨年度比：+1.0%

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	22	22	20	22	21	20	23	20	21	20	18	21	250
延利用数	783	789	965	778	757	750	869	746	773	677	655	754	9,096
利用率%	89.0	89.7	95.6	88.4	90.1	93.8	94.5	93.3	92.0	84.6	91.0	89.8	91.0

イ 土曜開所の実施

※昨年度比：-49人

月別	4月	5月	9月	10月	12月	1月	3月	計
延べ人数	24	25	25	34	23	24	26	181

ウ 夏季期間中の開所

夏季日課は8月13日～16日までの4日間で利用率は73.1%だった。

## Ⅶ 久喜市立のぞみ園

### 1. 実施事業

#### (1) 定員と利用率

令和7年3月31日現在

事業名	定員	現員	平均利用率
児童発達支援	10名	12名	57.0%

### 2. 令和6年度の重点実施事項

#### (1) 専門的な知識や支援技術の習得

発達障害に関する月刊誌を読んだり、動画を観て支援方法や知識を学んだ。実際に支援してみてどうだったかを検証し、次の支援に活かすことができた。

#### (2) 安全計画の実施

- ア 安全計画に沿って避難訓練や危険箇所の確認などを行ったり、保護者へは保護者会の時に周知し、取り組みについて説明を行なった。
- イ マニュアルは、改善が必要な箇所について見直しを行なった。職員間で安全面について今後も定期的に確認しながら計画作成、マニュアルの見直しを行なっていく。

### 3. 具体的取組み

#### (1) 利用者支援

##### ア 個別支援

- (ア) 生活習慣の行い方や動作などを、スモールステップで分かりやすい方法で伝えた。子どもが意欲を持ったり、一人でできるようになったりと成長が見られた。
- (イ) 運動や制作など、それぞれが好きなこと、得意なことを行えるように選択活動を取り入れた。意欲的に楽しんで行なっていた。

##### イ 集団生活に適應する力を育てる

- (ア) 事前に次の行動や活動で行うことを具体的に分かりやすく伝え、スムーズに行動できるように配慮した。
- (イ) 友達とのやりとりを保育士がシャドーイングして言い方を伝えたり、お当番を行うのが一人では難しい時は、お友達と一緒にやらせてもらうなど、一人ひとりの様子を見ながら支援を行なった。

##### ウ 療育専門指導

S T、P T指導は月1回、定期的に行なった。指導者と情報交換をして子どもの発達についてアドバイスももらった。

##### エ 家族支援

- (ア) 連絡帳や送迎時を利用し保護者と情報共有を行ったり、保護者との相談やアドバイスを行なった。また、毎月実施した「グループ親子登園日」や保護者会を開催し、保護者同士の交流や意見交換を行なった。

(イ) 就学についての座談会を8月に行った。また、学校見学へ同席し学校の情報を共有したり、就学についてのアドバイスも行なった。

## (2) 人材育成

- ア 外部研修に参加し、ペアレントトレーニングやPT指導からアプローチした運動面、「遊び」について学んだ。日頃の支援について振り返ることができ、活動の参考となった。
- イ 上記の外部研修で学んだことや、発達障害の専門誌、動画など各自で学んだことの報告会を実施した。

## (3) リスク管理

- ア ヒヤリハット事例はなかなか集まらなかった。些細なことでも記録に残して職員間で周知することを今後行っていきたい。
- イ 登園予定の園児の人数確認や散歩に出かけた時の人数確認など、職員が所在確認を意識して行っていた。
- ウ 写真を撮る機会が多いため、特に外部へ発信する時に個人情報の取扱いに関して注意を払うように職員へ周知を行なった。

## (4) 感染症防止対策

- ア 感染症のBCP計画に沿って研修や訓練を行ない、職員間で役割を確認した。
- イ 子ども特有の感染症は、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルスなどの罹患者が出たが、広がることはなかった。

## (5) 地域交流

- ア 地域の関係機関との連携
  - (ア) 関係機関と連携を図ったが、他の児童発達支援の事業所との連携が弱いので、今後繋がりを持っていきたい。
  - (イ) ボランティアは、定期的に受け入れを行った。実習生は、1日のみの実習生を計6名受け入れた。
  - (ウ) 運動公園への散歩や、普段なかなか行けない公園へ出かけるなど、行動範囲を広げて活動を行なった。

## (6) 事業運営（収益の向上）

- ア 定員より多く受け入れを行ったが、家庭の都合による長期の欠席や病欠者が多かったこと、併用をしている園児が幼稚園を利用する例が多かったこと、年度途中から幼稚園の日数を増やすことも多く、利用率が低かった。
- イ 入園をしていない子どもの療育指導（PT指導）を受け入れ入園に繋げたり、SNSで園の様子を掲載し、園のアピールを行なった。

## Ⅷ 久喜市ゆう・あい

### 1. 実施事業

#### (1) 定員と利用率

令和7年3月31日現在

事業名	定員	現員	平均利用率
生活介護	20名	21名	91.2%

#### (2) 利用者年齢構成

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均年齢
生活介護	男性		4	8	1	1			33.4歳
	女性		1	2	4				37.7歳

#### (3) 障害支援区分

		未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
生活介護	男性					1	1	12	14人
	女性					2	1	4	7人
計						3	2	16	21人

### 1. 令和6年度の重点実施事項

#### (1) 社会参加活動の充実

- ア 生活サポート協会が主催するアールブリュット展や埼玉県が主催する障害者絵画展、障害者アート企画展に利用者が創作した絵画や壁面作品を応募した。また、毎月ごとに利用者がテーマを決めた壁面を制作し、それをカレンダーにして販売した。
- イ 社会体験外出として大型観光バスで葛西臨海水族園へ行った。また、利用者の希望や好みに合わせて、余暇外出や昼食外出に出かけた。

#### (2) チームワークの強化

ケース検討会議や虐待防止に関する会議では、具体的な場面を挙げて話し合い、また、日々の夕会でそれぞれの取り組み状況を確認しながら意見交換をして、職員が一体となって支援にあたるようにした。

### 3. 具体的取り組み

#### (1) 利用者支援

- ア 日常生活に関する支援は、利用者の状態に配慮した支援を行った。
- イ 活動班では、缶の仕分けや潰す作業、缶・古紙回収、受託作業（バリ取り、割り箸の袋入れ等）、自主製品製作、創作、室内レクリエーション、散歩など、それぞれの希望を聞き取ったり、利用者の特性や得手不得手によって班分けして取り組んだ。希望する内容によっては、所属する活動班とは別の班で取

り組めるように調整し、より幅広い経験ができるようにした。

- ウ 散歩やストレッチなど体を動かす機会を多く作り、久喜けいわの機能訓練棟を活用した運動や公園散策なども行った。
- エ 1月に宮代特別支援学校の訪問指導を受け、運動メニューの見直しや日常動作の中でできる内容をアドバイスしていただき、実践した。

## (2) 人材育成

- ア ケース検討会議の中で障害特性の勉強会を行い、職員間で統一した見解で支援するようにした。
- イ オンラインを活用した外部研修（虐待防止・権利擁護、感染症予防・対策、医療・薬の知識、労務管理）を受講し、職員一人ひとりの資質向上を図った。

## (3) リスク管理

- ア 火災、地震、水害を想定した訓練では、それぞれの災害に対するマニュアルを確認しながら、利用者や職員の安全が確保できるようにした。
- イ 公用車の管理担当者を決め、チェックリストを使って毎月点検を行った。安全運転に関しては内部研修と自己診断テストを実施して対策を図ったが、送迎中に自転車との接触事故があった。
- ウ 感染症予防・対策に関する内部研修や嘔吐物処理、手洗いチェッカーを使用した手洗い実技訓練を通して、感染症予防への意識を高めた。
- エ 職員はマスクを着用、食事や歯磨きの支援時はフェイスシールドの着用、パーテーションの設置、食事時間をずらして取る等、感染予防を徹底して取り組んだ。
- オ 外部災害研修の受講と水害を想定した内部防災研修を実施。災害時の心構えや対応を協議するなど、防災と日常の安全への取り組みについて全体で考える機会を設けた。
- カ 利用者一人一人に対して作成した「起こり得るリスク一覧表」を見直し、職員全体で情報を共有した。

## (4) 地域交流

- ア 地域への奉仕活動として清掃活動に取り組み、利用者と職員で近隣のゴミ拾いを定期的に行った。
- イ 利用者の作成による「ゆう・あい通信」を年3回発行し、地域への回覧や協力者へ配布して、活動内容を知っていただいた。
- ウ 3月に2日間、自主製品販売会を開催した。地域へ販売会のお知らせをしたところ、近隣からの来客もあった。
- エ コミュニティまつりやチャレンジドフェスタ、人間尊重・平和の日等に参加して、地域との交流に努めた。また、法人の未来推進委員会企画で開催した「けいわのさくひんてん」に、利用者の絵画や作品を展示した。

**(5) 事業運営（収益の向上）**

- ア 定員を超えた利用受け入れをしたが、1名の方がグループホームに入居したことに伴い、外へ出ることの切り替えが難しくなり、長期の欠席が続いたため、年間利用率は昨年度と比較して2%程度減少した。
- イ 家族の要望に応じて、年間延人数142名の時間延長を受け入れた。
- ウ 年7回休日開所を実施し、延べ95名の方が利用した。
- エ 日中一時支援の利用希望があり、1名、延べ6日の利用があった。

## 区 久喜市あゆみの郷

### 1. 実施事業

#### (1) 定員と利用率

令和 7. 3. 31 現在

事業名	定員	現員	平均利用率
生活介護	15名	17名	93.7%
就労継続支援B型	15名	16名	100.1%

#### (2) 利用者年齢構成

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均
生活介護	男性		3	4	3				35.6
	女性	1	1	1		3		1	45.7
就労継続	男性	1	4	4					29.4
	女性		4	1	1	1			34.1

#### (3) 障害支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	計
生活介護	男性		1	6	3	10
	女性	1	1	4	1	7
計		1	2	10	4	17

#### (4) 工賃支給額

<生活介護>

4月	5月	6月	7月	8月	9月		
2,928円	3,061円	3,857円	4,222円	4,305円	3,302円		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
4,669円	4,314円	4,164円	3,064円	3,896円	3,251円	3,2392円	

<就労継続支援B型>

4月	5月	6月	7月	8月	9月		
15,920円	18,375円	16,565円	17,445円	22,053円	18,731円		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
19,378円	15,601円	14,253円	23,201円	12,361円	14,427円	17,299円	

### 2. 令和6年度の重点実施事項

#### (1) 虐待防止・権利擁護の徹底

ア 利用者の要望を聞く手段として、意見箱・個別ノート・個別面談等を活用し、出た意見を利用者自治会にて議題として取り上げ、生活の中に反映した。また、表現することが難しい人には、スマートフォンや交換日記など、個々に応じた手段により、普段聞けない悩みや課題を汲み取ることができた。

イ 毎月ケース会議を開催し、利用者の障害特性を理解するよう努めた。会議にてケースを深く知ることにより、本人が何に困っているのか、何を望んでいるのかを知ることができた。また、外部研修 2 回、法人内研修 2 回、事業所内研修 2 回行い、権利擁護の意識を高めた。

ウ 毎日の夕会にて 1 日の活動を振り返り、活動内容や支援方法など話し合った。課題点や疑問点を、その日のうちに振り返ることで、素早く解決策を模索することができた。

## (2) 支援力の向上

ア 対応の難しい行動障害の利用者に対して、専門的な知識を習得するため、1 名が強度行動障害支援者研修（基礎・実践）を受講した。

イ 生活介護では行動障害の対応が難しい利用者に対して苦慮していたが、就労継続支援 B 型の職員からもアドバイス等を受け、全体でケースの支援に取り組むことができた。

## (3) 地域活動への参加の促進

ア 今年度は地域行事が縮小され、「コミュニティ祭り」と「人とひととの集い」の二つの行事に参加した。

イ 作業活動（保健センター清掃）、クラブ活動（茶道・軽運動・書道・絵手紙）、環境整備（花壇や施設周り）等を通じて、年間延べ 150 人のボランティアの方々のご協力を頂き、活動の幅を拡充することが出来た。

## 3. 主な取組み

### (1) 利用者支援（各事業共通事項）

#### ア 日常生活支援

毎朝、登所時に身だしなみを整え、健康状態の確認を行った。また、保護者との間で連絡ノートを活用し、家庭での様子の把握に努め、睡眠不足や家族とのトラブルなどの情報を把握することができ、早めの対処ができた。

#### イ 社会生活支援

(ア) 公共施設の清掃作業（鷺宮保健センター、鷺宮中央コミュニティセンターコミュニティ広場トイレ）を請け負い、利用者・職員ともに清掃を行なった。市民の方々とも会話する機会を持つことができ、相手から声をかけてもらえることも増え、地域の一員としての自覚を持つことができた。

(イ) 地域行事である「コミュニティ祭り」と「人とひととの集い」にて、刺子、染 T シャツ、ビーズブレスレッド、キーホルダー、推活カード等、自主製品の販売を行った。

(ウ) 利用者自治会を毎月実施し、利用者の声を日常に取り入れた。利用者間で話し合い、バス旅行や忘年会などの内容を考え形にすることができた。

#### ウ 感染予防対策

コロナ禍前のような生活を取り戻すよう努めながら、手指消毒、日々の体調管理、館内の消毒などの感染防止策を講じ、最小限の感染に抑えられた。

#### エ 健康管理に関する支援

週一回、看護師による体重測定やバイタルチェックを実施し、些細な変化にも対応できるようにした。心配な時は、嘱託医や家族に連絡し、対策を検討した。

## (2) 各事業の支援

### ア 生活介護事業

#### (ア) 日常生活支援

嚥下機能に課題がある人に対して、看護師、家族と相談し、食事形態や食事姿勢などを見直し、安全に食事が摂取できるよう工夫した。以前よりも咽ることは減り、本人も楽に食事出来るようになった。

#### (イ) 作業活動支援

個々に適した活動（室内作業、リサイクル作業、資源ごみ回収）の編成を行い、作業意欲を高めた。暑い時期は室内でペットボトルを潰したり、体力に自信のない人は休憩を小まめにとりながら作業を行った。

#### (ウ) 余暇支援

今年度は日帰りバス外出を計画し、茨城県の自然博物館へ4回に分かれ出掛けた。久しぶりのバス外出で、利用者の方々も親睦を深め、とても楽しそうであった。次年度の計画も期待しているとの声が多く挙がった。

### イ 就労継続支援 B 型

#### (ア) 就労習慣の支援

公共の場所へ行っても失礼のない服装や言葉使いなど学べるよう支援したが、まだ意識が足りない部分が多くみられた。今後も継続的に支援を行い、就職等へ結びつく取り組みを行いたい。

#### (イ) 工賃向上の支援

新規の受託作業を1件増やし、作業単価の交渉を意欲的に行った。また作業工程も常に見直し、効率化を図った。その成果もあり、平均工賃は昨年度よりも約2,000円アップの17,299円となった。

#### (ウ) 就労支援

就職希望者のアンケートを行うと3名が希望の手を挙げたので、一般企業への就職に向け動き始めていく。

## (3) 働きやすい職場づくり

### ア 心身の健康維持

勤務時間内に交代で事務仕事ができるよう作業プログラムを変更したところ、以前よりも超過勤務の減少につながった。また、ひとりの職員に業務が集中することがないように定期的に面談を行い、業務の進捗内容の確認を行った。

### イ 情報の共有

毎日、業務日誌へ申し送り事項を記載し、正規・非正規に関わらず、職員全員が目を通すことを習慣化したことで、情報の漏れが減少した。また会議に参加できなかった職員については、資料と共に口頭での説明を行った。

## (4) 事業運営（収益の向上）

ア 生活介護事業で重度障害者支援加算を取得し、大幅な収入増に繋がった。

イ 就労継続支援 B 型事業で平均工賃が向上し、平均工賃月額区分が1ランク上がった。また4月に新規利用者1名を受け入れ、収入増に繋がった。

## X 障害者生活支援センターきよく

### 1. 実施事業

#### (1) 事業及び職員体制

令和7.3.31現在

事業名	実施主体	職員体制
特定相談支援・障害児相談支援	久喜市	6名（専任1名・兼務5名）

### 2. 令和6年度の重点実施事項

#### (1) 利用者の意思決定を尊重したサービス等利用計画の作成

利用者や家族、関係機関からの聞き取りを丁寧に行い、利用者の意思を最大限尊重したサービス等利用計画書を作成した。

#### (2) モニタリング報告書の質の向上

新型コロナウイルスが落ち着いてきたので、家庭訪問や事業所訪問を積極的に実施し、利用者の現状把握に努めた。聞き取りでは、プランの実施状況の確認や必要なサービスや要望に変化はないか等を確認し、ニーズに合ったサービス利用が継続されるように努めた。

#### (3) 他関係機関との連携強化

久喜市が行う計画相談支援連絡会や関係機関で行うサービス担当者会議に積極的に参加し、連携を強化することができた。特に短期入所事業所やグループホームとの連携を強化したことで、受け入れ先を確保することができた。

### 3. 具体的取組み

#### (1) 令和6年度の作成件数

##### ア 指定特定相談支援（成人）

サービス等利用計画	177件
モニタリング	349件

##### イ 指定障害児相談支援（児童）

サービス等利用計画	11件
モニタリング	16件

#### (2) 人材育成

ア 久喜市相談支援連絡会に参加し、様々な情報の共有やケース検討などを通して、知識と技術の向上に努めた。

イ 外部研修、法人内研修に参加し、専門性の向上を図った。

#### (3) 感染症防止対策

新型コロナウイルスが落ち着いてきたが、念のため、感染予防としてマスクの着用を継続した。

#### (4) 事業運営（収益の向上）

人員配置等の状況から、加算を取得せず、基本報酬の向上に努めた。

(I 事業報告 法人本部)

XI 令和6年度 社会福祉法人啓和会 運営施設一覧

	名称	サービス(事業)内容	定員数	所在地	事業種別		
法人運営	法人本部			久喜市六万部1435			
	久喜けいわ	生活介護		67	久喜市六万部1435	第一種	
		就労移行支援		6	久喜市六万部1445		
		就労継続支援B型		32			
		施設入所支援		54	久喜市六万部1435	第二種	
		短期入所		6		公益	
		日中一時支援					
	グループホーム清久	共同生活援助		44	久喜市上清久1524-1	第二種	
	清久			(7)			
	上清久			(4)			
	ハイツ清久			(3)			久喜市上清久667-5
	こすもす			(4)			久喜市葛梅446-12
	おぎそね			(7)			久喜市久喜東4-20-13
	サテライトこぎそね			(1)			久喜市久喜西187-15
	こがらい			(7)			久喜市六万部780-2
	しらはた			(7)			久喜市上清久字白幡628-1
	うちや			(4)			久喜市下早見1769-1
	短期入所		1				
	ワークハウス コムラード	就労継続支援B型		20	久喜市下早見1769-6	第二種	
	相談支援センター				久喜市青毛753-1	公益	
	久喜市障がい者生活支援センターきらら	相談支援事業(市事業)					
		埼玉県障害児等療育支援事業(県事業)					
		巡回支援専門員整備(市事業)					
	久喜市障がい者就労支援センター	久喜市障がい者就労支援事業(市事業)					
	埼玉葛北障害者就業・生活支援センター	障害者就業・生活支援センター事業(雇用安定等事業)(国事業)					
		障害者就業・生活支援センター事業(生活支援等事業)(県事業)					
	久喜市基幹相談支援センターくさかん	基幹相談支援センター等機能強化事業(市事業)					
障害者生活支援センターきよく	指定計画相談支援			久喜市六万部1445	第二種		
久喜市指定管理受託運営	久喜市いちょうの木	生活介護	40	久喜市所久喜835-1	第二種		
		日中一時支援			公益		
	久喜市ゆう・あい	生活介護	20	久喜市上内327-6	第二種		
		日中一時支援			公益		
	久喜市あゆみの郷	生活介護	15	久喜市東大輪2273-1	第二種		
		就労継続支援B型	15				
		日中一時支援			公益		
	久喜市立のぞみ園	児童発達支援		10	久喜市北青柳1331	第二種	